

各関係機関長 様

佐賀県農業技術防除センター所長

梅雨入り前進化に伴うイチゴ炭疽病の防除徹底について

本年は、梅雨入りが早く、断続的な降雨が続いています。イチゴの炭疽病の分生子の飛散は、気温が高く降雨日が連続する場合に多くなり、感染株から周辺株への伝染リスクが高まっています。

については、下記事項を参考に対策を徹底するよう生産者への指導をお願いします。

記

1. 病徴 炭疽病 (*Glomerella cingulata*)

苗では、葉に汚斑状の小斑点（直径2~3mm程度）、ランナー・葉柄には黒色病斑を生じる。クラウン部が侵されると、株の生育抑制、新葉のつやがなくなる等の症状を生じた後、全身的な萎凋症状を経て、最終的には枯死する。



葉の汚斑状病斑



ランナーの黒色病斑



クラウン部の褐変症状
(上:横断面,下:縦断面)



株の立枯れ症状

2. 防除対策

1) 耕種的防除

- (1) 寒冷紗展張よりも発病抑制効果が著しく高いビニル雨よけ下で育苗を行う（表1）。
- (2) 苗は十分な間隔を置いて並べ通風を図る。また、過度の灌水は控える。
- (3) 発病した株は伝染源となるため、隣接する株も含め早急に除去、処分する。

2) 薬剤防除

- (1) 薬剤防除は、感染前散布の防除効果が高いため、降雨前の予防散布を基本とする。
- (2) 散布間隔は、ビニル雨よけ圃場では約10日間隔、既に発病が見られる圃場やビニル雨よけを行っていない圃場では散布間隔を短縮する。
- (3) 薬剤感受性の低下を防ぐため、異なる系統の薬剤を組み合わせるローテーション散布する（表2）。
- (4) 薬剤は、地際のクラウン周辺部に届くよう十分量を散布する。

表1 育苗時のビニル雨よけと寒冷紗展張によるイチゴ炭疽病の発病推移（子苗）^{注1)}

	発病株率（%） ^{注4)}						（参考） 試験期間中の 薬剤散布回数
	6月30日	7月15日	8月12日	8月31日	9月10日	9月23日	
寒冷紗	0	47	78	54	多発生のため試験中止		15回（～8/31）
ビニル雨よけ	0	0	0	0	6	2	12回

注1) 佐賀県農業試験研究センターが2020年に行った試験。イチゴ炭疽病菌を接種し萎凋した株を区の中央に置き、接種源とした（設置期間5/29～7/8）。

注2) 葉に汚斑を生じた株、葉柄に黒斑を生じた株、萎凋・枯死株を合わせて発病株とした。萎凋・枯死株は、調査のたびに除去処分した。

表2 ビニル雨よけ被覆育苗圃場でのイチゴ炭疽病薬剤防除体系（例）

3月	4月			5月			6月			7月			8月			9月	
下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中
キ	ジ	ア	ベ	セ	ア	ゲ	キ	ベ	セ	ア	ゲ	デ	ア	セ	ア	ゲ	ベ
ノ	マ	ン	ル	イ	ン	ツ	ノ	ル	イ	ン	ツ	ラ	ン	イ	ン	ツ	ル
ン	ン	ト	ク	ビ	ト	タ	ン	ク	ビ	ト	タ	ン	ト	ビ	ト	タ	ク
ド	ダ	ラ	ー	ア	ラ	ー	ド	ー	ア	ラ	ー	フ	ラ	ア	ラ	ー	ー
ー	イ	コ	ト	ー	コ	W	ー	ト	ー	コ	W	L	コ	ー	コ	W	ト
F	セ	ー	W	F	ー	P	F	W	F	ー	P	ー	ー	F	ー	P	W
L	ン	ル	P	L	ル		L	P	L	ル		ル	ル	L	ル		P
	W	W			W					W			W		W		
	P	P			P					P			P		P		

注) WP：水和剤、FL：フロアブル

連絡先：佐賀県農業技術防除センター 病害虫防除部

〒840 - 2205 佐賀市川副町南里 1088

TEL (0952) 45 - 8153 FAX (0952) 45 - 5085

Mail nougyougi.jutsu@pref.saga.lg.jp

ホームページアドレス <https://www.pref.saga.lg.jp/kiiji00321899/index.html>

